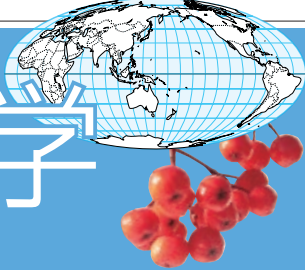


学報

学校法人 北海学園
北海商科大学
アジアの時代に、アジアを学ぶ。
Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol. 27
2019.12.20
発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
https://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

3.	オープンキャンパス開催	2面
4.	短期交換研修生来日、合同授業など実施	2面
5.	1年生海外語学留学プログラム出発	2面
6.	2019、2020年度のキャリア支援について	3面
7.	後期ガイダンス実施/2年次所属学科決定	3面
8.	第7回高校生懸賞作文の入賞者と表彰式	3面
9.	全日本珠算選手権大会で優勝	4面
10.	中国吉林省で交流イベントを実施	4面
11.	外国語スピーチ・作文コンテストと語学能力試験	4面
12.	東北アジア青年フォーラムへ参加	5面
13.	内閣府の青年交流事業で北京など訪問	5面
14.	留学だより	5面
15.	ゼミ訪問 コマース研究阿部ゼミ	6面
16.	「研究のいま」小堀雅浩先生	6面
17.	OB・OG NOW!	6面
18.	2019年度後期公開講座開催	7面
19.	日中経済国際学術シンポジウム開催	7面
20.	都市交通・観光・交通行動分析に関する国際セミナー開催	7面
21.	全国大会の合同大会(観光)が開催	7面
22.	レスブリッジ大学副学長来訪、交流	8面
23.	STAFF NOW!	8面
24.	新刊紹介	8面
25.	浅羽祭挙行される	8面
26.	@学生相談室ニュースレター 7	8面
27.	行事予定	8面

テーマ「Bridge of Thought 過去から未来へ 想いをつなぐ 新たな架け橋」

第14回 北海商科祭が開催される！



北海商科祭報告記

令和元(2019)年度の北海商科祭は、穏やかな天気の中、9月21日に本学キャンパスで開かれました。今回は体育館工事のため、大幅な変更を余儀なくされてのスタートとなり、最終的に、ステージは1号館と2号館を繋ぐ渡り廊下横に設営し、YOSAKOI会場を正門前の広場で行ない、サークルの模擬店は1号館南側の通路及び、2号館玄関横が会場となりました。

そんな中、恒例の「新鮮野菜詰め放題」が復活し、今年は長沼町の人気の道の駅から「幌内野菜集団」の農家さんが丹精込めて作った玉ねぎ、じゃがいも、にんじんの販売に列ができました。また併せて長沼町のパンフレットも配布、美しい田園風景に見入っているお客様も見受けられました。

一方、特設ステージでは、サークル対抗の早食いや大学生クイズなどのほか、テレビ番組で人気の「3つの言葉にくつつくワード」



が加わり、また、正門前広場でのYOSAKOIソーラン演舞は、地元豊平地区のチームの他、区外のチームにもおいでいただき、いつもと違った角度で、身近で演舞を鑑賞できました。

大学祭も「人手不足」が大きな問題であり、例年になく少ない実行委員の人数で、どれほどのものができるか危惧いたしました。が、関係各位のご尽力と学生のがんばりで、無事商科祭を実施できました。今年のテーマ「Bridge of Thought 過去から未来へ想いをつなぐ新たな架け橋」が次年度にも結びつくように祈っております。(加藤)



軟式野球部が春季リーグ戦2部で優勝！

本学の軟式野球部も所属している北海道地区大学軟式野球連盟は、全日本大学軟式野球連盟に加盟している団体の1つで、北海道の22大学で構成される軟式野球リーグです。

春季リーグは令和元(2019)年5月29日から6月5日まで、野幌総合運動公園において行なわれました。

本学軟式野球部は、2019年度第26回春季リーグ戦大会の初戦、北海道科学大学戦で、4回裏に2点を先制、その後1点を返されるも8回裏に追加点をあげ、4-1で快勝、続いて5月31日の札幌大学戦は3回に先制点を許したものの、5回

に4点、6回に2点をあげる猛攻で9-2のコールド勝ちをしました。3戦目、6月4日の東京農業大学生物産業学部戦は、2回に先制したものの6回に逆転され、3点のビハインドを背負う苦しい展開となりました。しかし8回裏に見事逆転に成功、5-4で逃げ切りました。

最終戦である6月4日の北海道医療大学戦では、エースが9回を投げ抜き5-0と完封で勝利、2部リーグを全勝で優勝し、3年ぶりに1部リーグ昇格を果たしました。(加藤)



オープンキャンパス開催



写真上：堂徳将人入試・広報センター長の挨拶 写真下左：水野俊平教授による韓国語模擬講義
写真下右：現役学生によるアドバイスのほか軽食も提供されたカフェスペース「shoka cafe」

今年度のオープンキャンパスは、6月23日(日)、8月9日(金)・10日(土)、9月29日(日)の3期延べ4日間にわたり、午前10時から午後3時までの時間帯で開催しました。

主な内容としては、まず全体説明会において、入試・広報センター長挨拶の中で、本学の建学の精神や歴史、アドミッションポリシーなどを紹介し、続いて事務長より本学の特色（カリキュラム・大学生活・就職状況）や入試制度などについての詳細な説明を行いました。また、商学科と観光産業学科の専門的な内容を分かりやすく伝える模擬講義の実施に加え、恒例の中国語・韓国語・英語の会話に重点を置いた語学体験の模擬授業を行い、来学者に本学での学びの一端を体験してもらうことができました。

受験者や保護者からの相談に応える個別相談コーナーでは、入試・広報センター委員が終日対応に当たり、活発な質疑・応答が行われました。また、高大接続改革を見据えて導入した公募推薦入試(Ⅱ期)のプレゼンテーションについて解説する特設コーナーを設けました。

学生の協力を得て行うキャンパスツアーでは、先輩のアドバイス付き学内案内とともに、2号館1階にカフェスペースを設け、夏にはかき氷を頬張りながら、また、秋にはお茶やお菓子を味わいながら、本学学生と来学者とが歓談する場面もありました。

本年度のオープンキャンパスへの来学者は558名（前年450名）と開学以来の14年間で最多（昨年度までの最小346名～最大459名）となりました。

ご協力頂いたアンケートからは、近年締結した高大連携校や併設校はもとより、地方からの参加が多かったこと、保護者や女子の割合が高くなったことなどが見て取れました。また、オープンキャンパスを知った理由としては「本学のHP」「大学案内」が例年同様に高い割合でしたが、加えて「進路指導」が従前には見られなかった高い比率を占めました。このことから、本学からの高校訪問や高大連携事業などによる日常的な高校との良好な関係づくりが進められるとともに、本学の教育活動が周知されてきているものと考えられます。

少子化が進行し、高大接続の三位一体的な改革が推進される中、オープンキャンパスの一層の改善を図って参りたいと思います。（堂徳）

短期交換研修生来日、合同授業など実施

本学では、毎年、中国人留学生と日本人学生との交流を深めるために、協定校である山東大学威海校と煙台大学の日本語学科から短期留学生を受け入れています。今年は、山東大学威海校からは9名、煙台大学からは9名、計18名の短期留学生を迎えまして、7月26日に本学の中国語履修1年生との合同授業を実施しました。

合同授業において、まず留学生に「日本観光立国政策の効果」を報告したうえ、7つのグループに分け、中国人学生は日本語を、日本人学生は中国語を用いて自己紹介をしました。また、中国人学生は留学に行く派遣学生の質問に熱心に答え、山東大学威海校や煙台大学の概況や町の風景、名物、食事などを紹介してくれました。言葉の通じないときに、多くの学生は筆談を通して楽しく歓談しました。最後にみんなで「朋友」という歌を熱唱して合同授業を終えました。（蘇）



短期留学交換研修生プログラムの日本語学授業



写真上：研修生と本学教職員記念写真
写真左：研修修了式での研修生代表による挨拶
写真右：研修生への修了証書授与

1年生海外語学留学プログラム(中国・韓国) 出発

去る8月27日、韓国の大田大学の短期留学プログラムに参加する学生10名（男子2名、女子8名）が千歳空港から出発しました。参加学生は5月に行われた留学生選抜試験に合格した学生です。本学の提携校である大田大学において、約5ヶ月間にわたり、語学プログラムを中心に韓国文化や生活風習についての留学プログラムを受講し、来年の1月14日に帰国する予定です。また、9月2日に中国の山東大学威海校の短期留学プログラムに参加する12名(男子6名・女子6名)、煙台大学の同プログラムに参加する15名(男子10名、女子5名)、合計27名が千歳空港を出発しました。参加学生は同じく5月に行われた留学生選抜試験に合格した学生です。各協定校において、約5ヶ月間にわたり語学プログラムを中心に中国文化や生活風習についての留学プログラムを受講し、来年1月11日に帰国する予定です。（水野）



出発前の韓国交換留学派遣学生



出発前の中国交換留学派遣学生と引率教員

2019、2020 年度の キャリア支援について

冬本番となり2019年度の就職活動は終盤を迎えています。2020年卒業者の就職内定率は、昨年並みとする調査・分析が多いようです。例えば、就職情報サイト大手マイナビのWEBアンケート調査では、6月に早くも6割に達した内々定率が8月には8割になったとのことで、やはり昨年並みとしています（詳しくは2020年卒マイナビ大学生就職内定率調査をご覧ください）。企業経営をめぐる環境は、業績面(見通し)で昨年比マイナス予測が一部で見られますが、雇用面では大手金融などを除き、企業の新卒者採用意欲に引き続き強いものがあります。採用計画人数に達していない企業は、大手より中小、三大都市圏より地方圏により多くみられ、秋以降もこうした企業中心に、2020年卒業者の採用活動が続いています。

今年は4月に就活をめぐる大きなニュースが伝わり、大学ではざわめきがおきました。経団連と大学側との間で長年成立してきた新卒者一括採用をめぐるルールが、経団連の意向で来年から廃止となりました。しかしルールは必要との認識も根強く、結局は2021年卒業者も今年同様、3月1日会社説明会開始・採用情報公開、6月1日採用選考活動開始、10月1日正式内定日という日程となりました。ただし企業側の採用活動の前倒しは年々進みつつあり、また今後は専門知識を有する一部人材の通年採用が拡大するとみられるので、新卒者一括採用に偏重したこれまでの慣行は転機を迎えているのが事実です。

採用活動の早期化に関連しては、企業のインターンシップ(就業体験)開催が短期型を中心に年々増えています。本来インターンシップは仕事や企業への理解を深めることが目的ですが、説明会を兼ねたセミナーや参加者によるディスカッション、職場見学会を1日程度で行うものが多く、学生選考につながるような状況も見え隠れします。本学では年間20回実施する3年生向け就職ガイダンス／講座で、インターンシップ参加者が急増する夏休みを念頭に、6月に学外インターンシップ対策を2度実施します。積極的に参加し、活用してください。（村松）

後期ガイダンス 実施

令和元(2019)年度後期ガイダンスを9月13日・14日と17日に実施しました。13日午前には3年次、午後に2年次、14日午前には1年次、17日午前には4年次、それぞれの年次生に必須の連絡事項と注意事項について、教務センター、学生支援センター、キャリア支援センターがガイダンスを実施しました。教務センター長からは、まず学年ごとに総修得単位数と直近半期のGPAポイントからなる散布図がスクリーンに示され、学生達は学修の量と質の側面から自分の成績ポジションを確認しました。次いで本学の3つのポリシー（ディプロマ・カリキュラム・アドミッション）が説明され、大学の基本方針を確認しました。併せて、オフィスアワーの利用や講義中の基本マナーの確認等、講義受講上の指導も行なわれました。各学年のガイダンス終了後に2年次と3年次の専門ゼミナールの申し込みと履修許可発表を行い、9月17～19日の期間にGPAポイント順に各学年の履修登録を行いました。履修登録科目の訂正は9月24日と25日に実施し、後期の講義は9月26日からスタートしました。（佐藤 博樹）



夏季休業明けの9月13日に行われた3年次後期ガイダンス



第7回高校生懸賞作文の入賞者と表彰式

写真・入賞者の皆さんと、後列左から伊藤 聡、藤沼 昭男、橋元 理恵、審査委員長・橋元 理恵、教務センター長・廣瀬 孝徳、入賞者入試・広報センター長



今年度の北海商科大学主催 高校生懸賞作文には道内各地から総数61編の応募がありました。この懸賞作文の募集は、高校生の鋭い観察眼で現代の市場、マーケティングに関心を持って頂くことを趣旨として、平成24(2012)年度より実施し今回で7回目となりました。作文のテーマは例年に引き続き「①日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちの観光スポット」「②日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのグルメ」「③日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのお土産」のうちどれか一つを選んで応募していただきました。厳正な審査の結果、右表のとおり11名の方々が入賞されました。表彰式は12月14日に本学で開催され、入賞者には、表彰状と副賞（図書券）が手渡され、審査講評と懇談会を開催しました。（橋元）



3年後期キャリア支援ガイダンス（9月）



合同企業説明会（3月）

3年生対象 就職ガイダンス・講座および就活支援イベントのスケジュール一覧〔2019年度〕

前期		後期	
ガイダンス / 講座等名	実施日	ガイダンス / 講座等名	実施日
第1回 就職ガイダンス	5月10日(金)	第3回 就職ガイダンス	10月1日(火)
就職活動の現状について ＝企業の視点から＝	5月17日(金)	ANA 新千歳空港(株) パネルディスカッション	10月9日(水)
就職活動の現状について ＝就職情報社の視点から＝	5月24日(金)	株式会社モロオ パネルディスカッション	10月29日(火)
学外インターンシップについて（導入編）	6月7日(金)	企業研究講座	11月12日(火)
学外インターンシップについて（実践編） ※予約制	6月14日(金)	適性検査結果フィードバック	11月19日(火)
適性検査受検 ※予約制（予約期間 6月17～28日）	6月24日(月)～28日(金)	自己分析講座	12月3日(火)
大丸株式会社パネルディスカッション	7月12日(金)	履歴書・エントリーシート講座	12月10日(火)
適性検査結果フィードバック	7月19日(金)	面接・GD 講座	12月17日(火)
第2回 就職ガイダンス	7月26日(金)	マナー講座	1月14日(火)
◎合同企業説明会(北海学園大学キャリア支援センターとの共催)： 3年後期に第1回、4年前期に第2～3回、4年後期に第4回		メイク講座（女子学生対象）	1月21日(火)
		第4回 就職ガイダンス	1月28日(火)



9月13日実施の2年次後期ガイダンス

2年次所属学科決定

令和になって初めての2年次後期の所属学科決定作業は、今年度で8回目となりました。学生の所属学科志望を考慮し、両学科の定員に対し志望が偏った場合には、1年次の成績評価に基づくGPAポイントを活用して所属学科の選考を行うことを1年次から周知して、3月22日に新2年次ガイダンス、5月22日に第1回所属学科選考ガイダンス、6月4～13日にかけて両学科の専門ゼミナール見学会を実施しました。6月26日に第2回所属学科選考ガイダンスを実施した後、CoursePowerを利用して「志望学科届」を受け付け、選考作業を行いました。選考対象学生215名に対し、学科ごとの志望結果は商学科113名、観光産業学科75名、志望学科届未提出者27名となりました。観光産業学科への志望者が両学科の定員比率（商2：観1）に基づく定員72名を僅かに超過したため、超過人数分3名と未提出者27名を商学科所属とし、最終的に商学科143名、観光産業学科72名で所属を決定しました。後期ガイダンス前の9月12日に選考結果をCoursePowerと学内掲示板で発表しました。（佐藤 博樹）

入賞者一覧〔敬称略〕

テーマ		氏名	高校名・学年
1位	観光スポット	小山内 花穂	北海道上ノ国高校2年
2位	グルメ	竹村 音々	北海道倶知安高校2年
2位	観光スポット	山崎 大輝	北海道倶知安高校2年
2位	観光スポット	田村 舞恋	北海道根室高校3年
2位	グルメ	秋山 侑輝	北海道倶知安高校2年
3位	観光スポット	野村 実玖	北海道倶知安高校2年
3位	グルメ	石崎 結子	北海道倶知安高校2年
3位	観光スポット	中川 鼓々	北海道倶知安高校2年
3位	グルメ	大西 舞雪	北海道倶知安高校2年
3位	グルメ	道下 華蓮	北海道倶知安高校2年
3位	グルメ	高橋 勇翔	北海道倶知安高校2年

中国吉林省で交流イベント 「北海道どんまい！」を実施



日本 珠算選手権大会 で優勝

読上暗算競技の部で初優勝

8月8日に京都で行われた全日本珠算選手権大会（主催：全国珠算教育連盟）の読上暗算競技の部で、商学部1年の久保新くんが初優勝しました。久保くんは、全国各地から676名が出場し、「頭脳の格闘技」とも称されている競争熾烈な珠算日本一を競う大会で見事栄光を手にしました。久保くんは、暗算では小学5年生で最高位の10段、珠算では中学3年生で10段を取得し、高校生(北海学園札幌高校出身)の時には全国珠算・電卓競技大会（主催：公益財団法人全国商業高等学校協会）で2連覇を成し遂げています。「小さい頃から計算に興味があり、珠算を習うようになりましたが、結果がはっきりと出て曖昧なところのないところが魅力。自分なりの工夫で試行錯誤を重ねたり、日々の練習の積み重ねで得られる達成感が楽しい」そうです。来年度は選手権読上暗算2連覇と、僅かの差で届かなかった個人総合競技での優勝も目指しています。

また、今回の実績が認められ、日本学生支援機構の優秀学生表彰で奨励賞を受賞しました。久保くんは現在1年生ですが、数字や計算を扱う専門課程の講義に興味を持っているとのこと。珠算という特技も生かし、将来的には税理士や会計士を目指して勉強したいという明確な目標を持っています。



全日本珠算選手権大会読上暗算競技の優勝盾を手にする久保新君

本学商学部2年の学生5人が、9月17日から7日間の日程で中国吉林省延辺朝鮮族自治区を訪問し、日本と北海道の文化を現地の若者に伝える交流イベント「北海道どんまい！」を実施しました。独立行政法人「国際交流基金」が主催する青年交流事業で、本学の佐々木七菜、佐藤綾花、北原幸枝、下城晴美、印牧明日香が全国から応募した約20チームから選ばれて参加しました。

全員が北海道出身の女子5人組なので、「ゆきっこ娘。」というチーム名で活動しました。交流イベントでは、十勝を連想させる牛乳を使ったアイス作り、富良野を連想させるラベンダーを使ったサシェ作り、登別を連想させる足湯、誰もが1度は着てみたい浴衣試着のコーナーをそれぞれ用意しました。そして北海道の美食、ジンギスカンと「ちゃんちゃん焼き」を提供しました。

開会式では、私たちが北海道の観光地を巡って撮った動画を流し、よさこいソーランも披露しました。どのブースも人気で、イベントには約500人が訪れました。

イベントを成功させるまでには、いろいろと苦労もありました。まず、中国に行く前に「we chat」という中国版LINEアプリで、中国側の学生と連絡を取りましたが、認識の違いがあったり、ビデオ通話であまり通話に参加できない子がいたりしました。

現地で会うまでは、私たちが必要だと思っている物を買ってくれているか、アイスの作り方や教室の配置、印刷物はしっかり出来ているかなど、不安が尽きませんでした。けれども、現地で会ってから、顔を見て話したり、実際の物を見て安心しました。

中国の学生たちは、とても親切でした。私たちが作ったミサンガをあげると早速手首に着けて喜んでくれました。ご飯も毎日一緒に食べました。延辺の街中には、中国語もあれば朝鮮語(ハングル)もありました。そして朝鮮料理もたくさんあり、どれも美味しく食べました。今回私たちはたくさんの人に支えられて成功したのだと実感し、感謝しかありません。これからも日中間係がより良くなるために色々なことに挑戦していきたいと考えています。（商学部2年 佐々木 七菜）



報告会を行った5人のメンバーと当日の参加券



イベントに協力した延辺の学生や教員と北海商科大学の学生5名



11月13日に学内で行われたイベント報告会



延辺の児童図書館を訪問し、職員から説明を受ける印牧さん・佐藤さん



延辺の学生と協力して北海道料理を用意する佐藤さん(写真内中央)



吉林省の名山「長白山」を訪問。対岸は北朝鮮(左から佐藤、北原、印牧、佐々木、下城。敬称略)

■外国語スピーチ・作文コンテストと語学能力試験■

第37回全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会に入賞

10月13日、北海道日中友好協会が主催する「第37回全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」が札幌市で行われました。本大会は、「朗読の部」、「暗唱の部」、「弁論の部」に分けて行います。3年生の石井利磨君が「弁論の部」の1位と最優秀賞、本学3年生の齋藤友里奈さんが「朗読の部」で3位、2年生の佐々木七菜さんが「暗唱の部」で3位を受賞しました。また、最優秀賞を獲得した石井利磨君は、北海道代表として2020年1月に東京で開催される全国大会に出場することになりました。これで本学からは北海道の代表になるのが6人目となります。

毎年、本学の学生から中国語スピーチコンテストに参加者が多く出ており、中国人留学生の応援や助言を受け、各部門でその学習効果を披露して多くの受賞者が生まれました。しかし以前と比べると高校生の参加者も多くなり、中国語のレベルは全体的に向上して来ているため、今後はより一層、本学の学生はもっと高い目標を持って弛まずに頑張してほしいです。

(蘇)



弁論の部での石井利磨君のスピーチ



本学・蘇林教授(中央)と本学から参加した学生の皆さん



北海道大会入賞者と関係者の皆さん

韓国語スピーチ・作文コンテストと韓国語能力試験の結果

11月9日(土)に北海道立近代美術館講堂において開催された第21回北海道韓国語弁論大会（主催：札幌韓国教育院・北海道韓国学園）において、本学2・3年生の女子4名が本学の李鳳先生の指導のもとに参加しました。3年生の鷲田七海さん、2年生の水嶋友里さんが銅賞、2年生の斎藤アスカさん・木村海憂さんが奨励賞を受賞するという快挙を成し遂げました。この大会は北海道の地域社会における韓国に対する理解と韓日友好親善の拡大を目的として毎年11月に実施されています。

去る7月7日、韓国教育省・国立国際教育院が主催し、駐日韓国大使館・韓国教育財団が主管する第65回韓国語能力試験が本学を試験会場に実施されました。この試験に本学の1～3年生13名が受験しました。上級の5級に1名、中級の4級に3名が合格し、特に1年生の中で4級合格者が出たことは快挙でした。

去る8月30日、駐日韓国文化院（東京）が実施する「韓日交流作文コンテスト2019」において、本学3年生の東松宣希君が「日本語エッセイ一般部門」で入賞、本学2年生の市川英里香さんが「韓国語エッセイ一般部門」で入賞を果たしました。日本全国各地から昨年度を遥かに上回る2,704通の応募が集まる中での快挙でした。（水野）



北海道韓国語弁論大会に本学から参加した学生の皆さん



北海道韓国語弁論大会での鷲田七海さんのスピーチ

東北アジア青年フォーラムへ参加

8月18日～19日、韓国にて第4回日韓討論会が行われ、8月19日～24日には日中韓3カ国の大学生、大学院生による東北アジア青年フォーラムが開催されました。本学からは中国語、韓国語を履修している6名の学生が参加しました。



前列左から5人目・3年山田梨佳さん、中列左から2人目・1年佐々木琢君、5人目・1年田中凌河君、6人目・1年工藤航君、後列左から5人目・1年松浦康太君、8人目・4年長代敬太君

商学部1年 工藤 航

私は夏休みを利用して8月に行われた、第16回東北アジア青年フォーラムに一週間参加しました。日韓関係が冷え込んでいるなか、この時期に行っても大丈夫なのかという思いが最初は強かったです。しかし討論会での話し合いや、文化体験での交流などを通して、友好関係を築くことができ、そんな思いはいつしか無くなっていました。最終日の自由行動では3か国の参加者でグループを作りソウル市内を観光して、さらに友好関係を深めることができたと思います。

悪化している関係を改善するには、自分の事情を相手に理解させようとする前に、相手の事情をよく聴き、自分たちが先に理解しようとする姿勢が大切だと思います。これは国際関係に限らず、全てのことに共通して言えることだとこのフォーラムに参加して改めて実感しました。今後さらに韓国語を勉強して、将来的には通訳で再び参加したいと思います。

内閣府の青年交流事業で北京などを訪問

商学部観光産業学科3年 齋藤 友里奈

日本代表青年団の一員として、内閣府が主催する日中青年親善交流事業(訪問国活動)に参加してきました。10月29日から11月9日まで、計12日間の日程で、北京市、鄭州市、洛陽市、杭州市の計4都市を訪問しました。

現地では、中国政府の指導の下で青年の活動を管理する「中華全国青年連合会」、「荒野行動」などのゲームを開発している大手IT企業「Net Ease」、そして中国のシリコンバレーとも呼ばれる北京「中関村」地区など、多岐にわたる機関や地域の視察を行いました。また歓迎会では、中国人青年に日本文化を紹介したり、意見交換会を行ったりしました。ホームステイにも参加しました。

この4年間、私は中国を毎年訪れ、そのたびに変貌ぶりに驚かされています。今回も同様でした。3年ぶりに訪れた北京の故宮博物館では、入場者数を1日8万人に制限していました(写真①)。また、2年前の留学時には見たことのなかったシェアバイクの新たなブランドが多数存在していました(写真②)。今年で建国70周年を迎えた中華人民共和国では、どの都市を訪れても、またどの施設を訪問しても、70周年を祝うモニュメントや旗が各所に置かれていました(写真⑤)。

急速に変化を続ける中国を知るためには、自ら足を運び、現地の人びとに話を聞かなければならないのだと、あらためて実感しました。そのようにして得られた情報を、自分がどう活用していくかで、中国での学びを生かせるか否かが決まります。それを理解したうえで、残りの限られた大学生活を有意義に過ごしていきたいと考えています。



写真①北京の故宮博物館
写真②中国の都市に普及したシェアバイク
写真③水辺に高層ビルが建ち並ぶ鄭州の夜景
写真④日本青年団を代表し、北京語言大で発表を行う齋藤さん
写真⑤建国70周年を祝って制作された陶磁器

留学だより

商学部1年 高橋 友樹 中国・煙台大学留学

私は現在煙台大学で短期留学しています。私がこの留学プログラムに参加させてもらった理由は、留学でたくさんの体験をしてそれらを将来何かに役立てられれば良いと感じたからです。

私は海外に行った経験がなく、出発前は楽しみな気持ち以上に不安でした。実際中国に着くと、いつもと全く違う現実これからの生活が不安になりました。日本とは違う環境や文化の中で生活しなければいけなく、最初に特に大変だったのが食文化の違いでした。なかなか体に合わなかったのですが、今では中国で食べる料理は好きです。また、日本の先輩や日本語学科の中国の方々へ様々なことを教えてもらい、何も問題なく安心して生活しています。

授業はもちろん、買い物をしたり、学生食堂で食事をしたり、同じ寮に住んでいる様々な国の留学生と友達になったり、日本語学科の方々と会話したり、現地の生の言葉にふれられるというところに留学の良さがあると私は今すごく感じています。

時間の経過がはやく感じられ、留学期間は残り半分ですが、毎日を無駄にせず有意義なものにしていきたいです。また、積極的に現地の方々や外国人と交流して語学だけではなく、様々なことを学びたいと思います。



写真：日本語学科学生とのサッカー交流で（中列右から2人目が高橋君）

商学部1年 福田 萌咲 中国・山東大学(威海)留学

不安と期待を胸に日本を出発してから、約3ヶ月が経とうとしています。皆、慣れない環境ながらも協力し合い毎日楽しんでます。

初めの1ヶ月は、今まで暮らしてきた日本とは全く違う環境・文化の中国で、言葉が通じない壁や食文化、習慣の違いを大きく感じました。そして中国語での授業や生活に苦戦することも多々ありましたが、日本では味わえない現地の中国語に触れることができ刺激になります。

また中国での生活の中では想像していたのとはまるで違い、とても便利でハイテク化していて驚いた点が多くあります。特にキャッシュレスについては、普段ほとんど現金を触ることも見ることもなく、便利ですが少し恐ろしいなとも思いました。実際に留学に来て勉学は勿論、新たな発見と経験の毎日日々見聞が広がり異文化への関心がより深まり良い経験ができていると実感しています。

今私達はあと2週間に迫っているHSKの試験に向けての勉強に迫われていますが、自分自身のスキルになるよう努めたいと思います。また貴重な留学生生活を悔いの残らないよう大切に過ごしていきます。



写真…留学中の仲間たちと（中列右から2人目が福田さん）

商学部1年 松山 充希 韓国・大田大学校留学

私たちは8月27日に留学先の大田へ出発しました。学校が始まるまでは、各自寄宿舎の掃除や生活用品の買い出しをしていました。韓国語のレベルテストを受けた結果、2人が中級、8人が初級クラスとなりました。クラスの大半がベトナム人で中国人と日本人が少数のクラスです。初めは、韓国語での授業でついていけないことが多々ありましたが、今では先生の言っていることが理解でき、クラスメイト達と楽しく授業を受けています。9月下旬に日文科として一年留学に来ている先輩方と一緒に体育大会に参加しました。授業が終わってから競技に参加したり、応援したりしていました。全体の競技が終了した後にある出し物では、日文科の生徒と一緒にダンスを披露しました。たくさんの歓声をいただけてとても嬉しかったです。10月にはリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの小テストと中間試験がありました。教科書とワークで復習していれば解ける内容でした。これから予定されているのは、小テストと期末試験、留学生が行くMTです。残りの留学生活もしっかり勉強して、皆んなと思い出を作りたいです。



写真上左：小俣さん、佐藤さん、クラスメイトと(中列左端が松山さん)
写真上右：時田さん、大谷さん、佐藤くん、塚崎さん、阪本さん、中村さんが日文科の学生と体育大会でダンスを披露
写真下：ロッテワールドで、廣瀬君、中村さん、阪本さん、塚崎さん



阿部ゼミの皆さん

ゼミ訪問

阿部 秀明 教授 ● コマース研究ゼミナール



商科の2年次後期〜4年次に開講されている「コマース研究ゼミナール」。阿部秀明教授による「ゼミナール」では、オリジナルのデータを用いて統計解析を行い、マーケティング等に活用するための分析能力を身につけることを目指しています。

アンケート調査からビッグデータまで、日々さまざまなかたちで情報が収集されている現代。これらは経済活動と深く関わっており、企業や行政では経済統計データとして統計解析を行い、マーケティングや政策などに活用しています。つまり、実社会では統計データを単なる現象として眺めるのではなく、分析して問題点を見つけ、仮説を立てて検証し、解決策を導き出す力が求められます。

ゼミの目的は、データ情報を読み解くための分析（計量経済分析）の知識を身につけることにあり、実証的な課題に取り組んでいます。特に、阿部秀明教授が重視しているのは学力3要素と言われる「思考力・判断力・表現力」を学生一人ひとりから引き出すことです。その検証のため、一昨年は地域経済分析システム RESAS（リーサス）を活用した統計解析の授業実験を実施しました。10の研究チームを作り、チームごとに地方自治体のさまざまな統計データから研究テーマを設定。『小樽エリアを訪れる外国人観光客の周辺観光の現状分析』や『ニセコ・エリアのグルメを基調とした観光戦略に関する研究』など、データから地域の課題を見つけることで、学力3要素を高める効果が得られました。

個々で分析し、統計解析の基礎を身につけることに取り組んでいます。使用するのは実店舗とネットで購入する商品の特徴やその違いについてのアンケート結果で、大学院が学内で行った調査に25名のゼミ生の回答も加えたオリジナルデータです。課題は、このデータからネットショッピングの利用状況と、ネットで購入する商品の特徴や商品の購買チャネル（購入の経路）の違いを明らかにすること。同じデータを用いているので見える数字は同じですが、それをどういう切り口で表現するかは、何を読み取るかによって一人ひとり異なっています。ネットショッピングで重視していることは何か。質？ 価格？ 知覚リスク（不安など購買行動を阻害する原因）を回避するために何か情報を手に入れているのか。友人？ SNS？ など、集計結果から立てた仮説を分析によって実証していくのが統計解析の基本です。



ゼミを訪ねた日は、アンケートの15の質問項目に対する回答を、各自Excelを用いて集計している真っ最中。全員真剣にパソコンに向かうなか、2年生の津谷晴希くんは「マーケティングや購買チャネル分析に興味を持ち、統計解析の初歩を学べるこのゼミを選びました。就職は一般企業の企画職を希望しているのですが、Excelの使用法など社会に出て実際に役立つと思います」。同じく2年生の山瀬亮くんは「商業高校出身で、統計の知識をもっと伸ばしたいと思いこのゼミを選択しました。でも、集計や統計解析はやったことがなく、大学の授業のレベルの高さを感じます」と話してくれました。

今期の最後には、分析結果を発表する報告会が予定されており、一人ひとりの思考力・判断力・表現力が試されます。

研究のいま ● 小堀 雅浩 教授
「コンビニのビジネス・モデルの今後」



北海学園北見大学から始まった私の教員生活は、間もなく退職の時を迎える。当時を回顧すると、新入生の宿泊研修、教職員参加の体育祭、柔道部の稽古・試合や合宿、ゼミ・コンパ、高校訪問、カリキュラムの再編、留学生受入体制の整備、多くの方々との出会いと別れなどが断片的に思い浮かぶが、もはや昔日の出来事でしかない。ただ、講義方式は板書からOHP、パワーポイントへと移り、出席登録機や授業アンケートが導入され、学生達の気質や言葉遣いも変わった。長い年月のなかで大学も変わってきたということだろう。

私個人の研究では、主な関心は地域商業の問題にあった。地域商業には、そこに暮らす人々の生活と仕事に必要な生活用品・業務用品と地場産品を地域内外に流通させる役割がある。この点を踏まえ、北見在住時には、北海道全体と道内支庁・都市レベル

での卸売業集積の特性とその変動に関する研究を手掛けた。また、道内大学の先生方と行った道内卸売企業に関する調査研究では、卸売経営の基盤となっていたメーカーの代理店・特約店制度の実状や変質・解体の様相をテーマとした。一方、卸売業とともに地域商業を形作る小売業については、1990年代半ばに生じた大店法の改正・運用緩和や酒類・米の販売免許基準の緩和などの流通規制緩和が地域小売業に及ぼす影響を網走管内と北見市を事例に検証した。この研究では、規制緩和により急増した北見市の大型小売施設が周辺町村からの買物客吸引を高め、北見市と周辺町村の零細業種店が大幅に減少している状況とともに、市内

15
16
17



セブン・イレブン1号店（東京都江東区豊洲）前にて

での大型店競争の本格化や商業核の分極化と中心部商店街の地盤沈下について論及した。ところで、地域商業の構造変化の動因は、大型小売施設の出店・開発に限られるわけではない。バブル崩壊以降の長期的不況下で、大型店の業績が軒並み低迷するなか、小型店ながらもフランチャイズ・システムに基づき急成長を遂げたコンビニエンス・ストア、そして近年ではネット通販の広がりもまた、地域商業のあり様を変貌させてきた。とくにコンビニは、かつての地元の単独小売商とは異なり、本部が開発・運営するビジネス・モデルに従って出店・運営される小売店である。コンビニ・チェーンの本部各社は、小売経営のフロント・システムとバック・システムにおける様々な革新を次々と導入・洗練し独自のビジネス・モデルを確立することにより、コンビニを日用品と非物販サービスを提供する便利な店として日本全国で定着させ、アジア諸国への進出も進めている。しかし、反面また、ここ数年来、コンビニのビジネス・モデルに揺らぎが生じている。FC店の値下げ販売、食品廃棄ロス、サービス業務の負担増、人手不足によるオーナーの過重労働と時短営業の導入、過密出店による既存店の収益悪化、レジ袋の廃止論議などがそれであり、本部とFC店との軋轢が顕現化している。コンビニ本部では、これらの問題に対処すべく種々の実験や試みを実施しているが、法的規制の可能性も含めて、コンビニのビジネス・モデルの進化と今後の国内外での展開が目下の関心事である。

OB・OG NOW！
「教える」ために必要なのは、「受け入れる」力

実は、もともと私は教師になろうと思っていませんでした。子どものころから数字を扱うのが好きで、珠算も得意。地元の北見市では北海道北見商業高校に進学し、簿記の勉強が大好きだったので「卒業したら銀行に就職しよう」と決めていたのです。ところが高校3年生のとき、ある先生から教職を勧められて「そういう道もあるのかな」と、志望を変更しました。「教師を目指して」というのとはずいぶん違いますよね。ただ、先生という職業への憧

札幌東商業高校の授業準備室で語る
藤原 佑実恵さん



れはなんとなくあったかもしれません。そして地元にある商業高校教員をたくさん輩出している北海商科大学の前身の、北海学園北見大学商学部に入學。大学でも簿記サークルに所属していました。

いよいよ卒業の時を迎え、教員採用試

●北海道札幌東商業高等学校教諭

藤原 佑実恵さん

[平成11(1999)年 北海学園北見大学商学部商学科卒業]



験に挑んだわけですが、1度目は残念な結果に。敗因は面接にあったと思います。自分が大学で学んできたことに自信があったので、「こうあるべき」という理想ばかり語ってしまいました。それではダメだと気づいたのは、臨時教員になったときです。いきなり先生として教室に入れられて、初めて現実を知りました。1人が理解しても、ほかの生徒には全然伝わっていないことがあるので、いろいろな教え方をしなければなりません。自分の理想どおり理解させられるわけではない。人に何かを教えるには、たくさんの引き出しが必要です。引き出しを増やすためには、学生時代から人に教えてもらう力、受け入れる力をつけたほうがいいと思います。自己主張ばかりだと考え方が固くなり、柔軟な対応ができなくなります。そして思いどおりにいかないという焦りが生徒にも伝わって、信用されなくなってしまいます。

最初は必死でも、生徒の表情が見えるようになる時がきます。「今日の調子はどうかな」と情報を受け取って教え方を変えていくことが、だんだんできるようになりました。教師になってもう20年ほど。今は2年生の担任をしています。生徒は自分の子どものようでかわいい。毎日、今日は生徒のどんな顔に出会うか、と楽しみです。ちなみに、今の高校の教頭先生は、私に教職を勧めた先生です。「いつか一緒に働こう」と言っていたことが実現し、とても嬉しく思っています。そしていつかは、母校の教壇にも立ちたいと思っています。

東 令和元(2019)年度 後期公開講座 アジアにおける時代の 趨勢を読む

- 日時：令和元(2019)年 10月19日・11月2日・11月9日・11月16日・12月7日（全5回、10：30～12：30）
- 場所：本学1号館8階会議場（第2回は2号館5階多目的ホール）
- 参加対象：一般市民（学生を含む）

本学の公開講座は前期・後期の年2回開催されています。後期は10月19日(土)から12月7日(土)まで、多彩な内容で5回にわたって実施しました。本講座の目的は、本学の教育目標が北東アジアの情勢を踏まえて「アジアの時代にアジアを学ぶ」ことに置かれ、現代社会の急速なグローバル化に対応した教育研究や、学外の研究機関との研究交流が実践されていることを、広く皆様にご覧になっていただくためです。今期のテーマは、最近の東アジアにおける社会・経済環境の変化や、東アジアと諸外国との繋がりが多様化を踏まえて、「東アジアにおける時代の趨勢を読む」としました。また講師陣は、中国国務院直属で最高学術機構である中国社会科学院の研究者、在札幌大韓民国総領事館総領事、内閣府観光カリスマの方々、文字の歴史研究の専門家、本学の教授でした。なお本講座は、道民が自発的に学習し21世紀の北海道を支える人材育成のために設立された道民カレッジの連携講座となっています。限られた回数ではありますが、本講座が知識の修得のほかに、日本を含めた東アジアにとどまらず、世界の人々の相互理解および国際交流へとつながることを期待しています。今後とも、多くの方々の積極的なご参加をお願い申し上げます。

(田辺)



写真左から、第2回公開講座講師の中国社会科学院世界経済政治研究所・張斌氏、第4回公開講座講師の在札幌大韓民国総領事館総領事・朴賢圭氏

第1回 10月19日(土)	●中国雲南省ナシ族・トンパ文化の行方ー伝統文化継承の実情ー 北海道大学准教授 山田勲之 ●アジアの北海道観光人気は持続的か？ ーコンテンツ・ツーリズムにその可能性をもとめてー 北海道大学准教授 伊藤寛幸
第2回 11月2日(土)	●中国の経済成長の転換 中国社会科学院 世界経済政治研究所グローバルマクロ経済研究室主任 張 斌 ●日中共同研究の意義 北海道大学准教授 西川博史
第3回 11月9日(土)	●多国籍化の進むニセコと子供達 リゾートプロデューサー 内閣府観光カリスマ 松橋京子 ニセコ・アドベンチャー・センター代表取締役 内閣府観光カリスマ ロス・フィンドレー
第4回 11月16日(土)	●日韓関係：葛藤から共同繁栄の未来に向けて 在札幌大韓民国総領事館総領事 朴 賢圭 コメンテーター 北海道大学准教授 李鳳
第5回 12月7日(土)	●「无・無・ん」と語になかった撥音「ん」の成立と定着 国学院大学北海道短期大学部講師 紅林幸子 コメンテーター 北海道大学准教授 西川博史

都 市交通・観光・交通行動分析に 関する国際セミナーを開催

8月22～24日、北海道大学に於いて、第10回都市交通・観光・交通行動分析に関する国際セミナーを開催いたしました。このセミナーは土木学会の研究委員会活動に位置付けられ、2008年に北京交通大学で開催された第1回大会から数えて、今回が10回目となります。日本開催は2014年の神戸開催以来、2回目ということで、海外からの参加者もこれまでに多く増えました。セミナーは土木学会、北海道大学、北海学園北東アジア研究交流センターの共催で行われ、8月23日には、阿部秀明大学院研究科長の開会挨拶からはじまり、本学の西川博史先生による基調講演と19本（日本からは5本）の研究発表が行われました。参加者数は、海外から17名（中国：13名、韓国：2名、タイ：1名、イタリア：1名）、日本から33名の総勢50名でした。研究内容は、交通を中心とした観光やまちづくりに関わるものが多く、進展する情報技術の取り込みの展開についても議論されました。（田村）



日 中経済国際学術 シンポジウム開催



写真上：中国社会科学院世界経済政治研究所・張斌氏による講演 写真下左：同研究所趙芮副所長による挨拶 写真下右：本学・西川博史教授による講演

北海学園北東アジア研究交流センター(HINAS)と中国社会科学院世界経済・政治研究所(IWAP)は11月2,3日の2日間、北海道大学において、「高度経済成長から質の高い経済成長への転換」をテーマとした国際シンポジウムを開催しました。本学から大学院商学研究科長の阿部秀明教授、商学部長の伊藤昭男教授ら教員・研究員9名が、IWAPから趙芮・副所長や張斌・グローバルマクロ経済研究室主任ら6名が参加しました。シンポジウムの来場者は、2日間でのべ90名でした。

2日午前の基調講演は、張主任とHINASの西川博史教授が行いました。張主任は中国経済の現状について、労働集約型のサービス産業が急成長し、投資主導から消費主導への変化がみられるなど、先進国のような「高所得国家」に向けた構造転換が進んでいると述べました。今後の課題として、医療・教育・住宅といった社会政策の充実と、規制緩和が必要であると指摘しました。西川教授は、日中共同研究について、伝統に学ぶことが異文化の共存・共生、さらに革新につながると、自作の漢詩を交えて語りました。

海洋プラスチック問題を取りあげた阿部教授は、使い捨てプラスチックの使用量削減や「拡大生産者責任」の考え方の普及に向け、日中の技術・政策的連携が不可欠であると述べました。伊藤教授は、自己抑制の原理や倫理性が不足した現代経済学では、地球規模の気候変動や資源の枯渇など構造的な問題を解決できないと指摘。エネルギー資源の有限性を前提に、経済成長を測る基準を量から質に転換し、富の再分配をより重視するような経済学の再構築が求められていると述べました。（佐藤 千歳）

全 国大会の合同大会 （観光）が開催される

「2019年度 第6回北海道地域観光学会全国大会 第18回観光まちづくり学会全国大会 合同大会」が、10月12日と13日の両日、本学にて開催されました。大きな被害をもたらしました台風19号の影響も否めませんでしたが、延べ100名の方のご参加を頂くことができました。講師に北見工業大学の髙橋清先生をむかえ、基調講演（演題『北海道の観光とモビリティを考えるーエコ・モビリティの可能性とその展開ー』）を頂戴いたしました。その後、『観光戦略と地域づくり』と題して、シンポジウム（座長：北海道大学・高野伸栄、パネリスト：本学・伊藤昭男、北見工業大学・髙橋清、本学・田村亨。いずれも敬称略）も開催されました。さらに、16本の発表セッションを実施することもでき、大変活気ある学術集会となりました。合同大会をつつがなく終えることができましたのも、講演およびシンポジウムへの依頼をご快諾いただきました先生方、会員の皆様、ご後援（北海道運輸局、北海道、札幌市）のお蔭と感謝しております。（伊藤 寛）



レスブリッジ大学 副学長らが来訪、交流



図書館を見学するレスブリッジ大学ヘイキン副学長(右)

本学の協定校であるカナダレスブリッジ大学からヘイキン副学長ご夫妻、パン国際交流センター長の3名が10月24日に来訪されました。同じく協定校である北海学園大学関係者と共に、本学からは伊藤昭男商学部長と水野俊平国際交流センター長らが出席のもと懇談が行われ、毎年実施されている交換留学や今後のさらなる交流発展を期し、意見交換が行われました。またその後、2号館などキャンパス内の施設を見学されました。

STAFF NOW!

■教務センター

主任 三戸 義明 [ミト ヨシアキ]

教務・国際交流センター担当
北海学園大学経済学部経済学科卒業

●趣味：音楽と読書

- ・演奏を聴きにライブハウスへ年に数回足を運んだり、自宅で少しだけ楽器を演奏したりしています。
- ・大学生頃から月に1～2冊、小説を読むことが習慣になっています。



皆さん、はじめまして！事務室 三戸です。今回、STAFF NOW!のページで紹介して頂くことになりました。よろしくお願いします。

私は、事務室入口から一番奥の、教務・国際交流の窓口で仕事をしています。席の位置と小柄な体格も相まって、発見しづらいかもしれませんが、見つけたら気軽に声をかけて頂けると嬉しいです。

私たち職員は、皆さんが大学でやりたいこと・やらなくちゃいけないことの、一つひとつを実現するために、最適サポートをすることが仕事です。ですので、皆さんにサポートが必要な時は、遠慮なく事務室の扉を開けて下さい。それぞれ得意分野を持つ職員が具体的なご相談をお受けします。ちなみに私は、留学や教職課程などを専門としています。

この記事を読んで、普段、事務室をあまり利用しない学生さんも気軽に来て頂けるようになれば嬉しいです。いつでもどうぞ。それではまた、大学でお会いしましょう！

@学生相談室ニューズレター7



「ピンチの切り抜け方」

学生相談室 カウンセラー 小林 美穂子

E-mail: soudan@hokkai.ac.jp

先日、自転車を漕いでいたら、後ろから自転車に追突されました。相手は日本語を喋れず、自転車は壊れ、身体はあちこち痛み、まさに災難です。この時、どんなに気をつけていても、思いがけず身にふりかかってくる不幸な出来事であるのだなぁと実感しました。

ただ、その後の行動や考え方によって、どんどん負のスパイラルにはまってしまうか、あるいは災難を最小限にとどめられるかの明暗が分かれてくると思います。例えば、「私はいつもついていない」「なんで私(俺)がこんな目に遭わなければならないんだ」といったような、いくら考えても答えが出ないことにとらわれてしまうと、いつまで経っても心の整理がつかないどころか、次第に怒りや悲観の感情に支配されかねません。あるいは、やけ食い、やけ酒のような行為は、さらに自分を傷つけてしまいます。

では、どうすればいいか。まずはやるべきことを先送りしないことです。今回のケースでは、警察を呼んで事故処理をすること、整形外科の受診、自転車の修理です。面倒だと思って怠ると、後々後悔の要因となりかねません。そして、その後どうしたかと言うと、「その人のせいでは落ち込むのはもったいない」と考え、好物のチリコンカン(豆とひき肉の煮込み料理)を作ることにしました。「えっ？ピンチのときに、そんなことできる？」と思われるかもしれませんが、できる範囲で自分が喜ぶことを敢えてやってみるのもお勧めです。なぜなら、人が悩むときは大抵じっとしています。動かないでいると余計な考えが次から次へと浮かびやすいのです。だからそんな時こそ、ちょっとでも興味のあることに手を出してみてください。何かに取り組んでいる間に嫌な感情は小さくなったり、結果的に忘れていた時間が増えたりします。同じ時間を過ごすなら、嫌な感情に苦しめられるよりは、何かに打ち込んでいる方が、ずっとラクです。気力も体力もないときは、“とっとと寝る”もありですね。後は、一人で抱え込まないで誰かに話すことも大事です。

キーワードは、「なんで」より「どうしたら」です。答えが出ないことを延々と考えたり、自分を傷つける行為はやめて、どうしたら自分がラクになれるかという現実的な対処法やできることを考えて実践していくことです。

しかし、そうは言っても、そんなに簡単に割り切れずにへこんだり悩んだりすることもあるでしょう。そんなときは、一人で悩まず、どうすればいいのか一緒に考えましょう。先ずは、上記のアドレスに、カウンセリング申込みの連絡をくださいな。

新刊紹介



『エンカウンターに学ぶ グループ学習 10のスキル』(教育エクレ)
大友秀人(本学教員)・水上和人 著
2019年11月/図書文化社

『ハーバーマスとホネットを超えて コミュニケーション的行為の理論から人間的生の理論へ』

横田榮一(本学教員) 著
2019年10月/梓出版社



『社会に開かれた教育課程を目指して～北海道の価値創造に向けた人材育成の体制整備の取組を通じて～』

堂徳将人・相浦宣徳・柳川博・阿部秀明 著(本学教員)
2019年3月/北海道運輸交通研究センター



『激変する農産物輸送』

相浦宣徳(本学教員)・富田義昭 著
2019年7月/北海道農業ジャーナリストの会

浅羽祭

学校法人北海学園主催による令和元(2019)年度浅羽祭が10月21日(月)に、ご遺族、大学・高校関係者など約30名程が参列し執り行われました。浅羽祭は本学園創立功労者である浅羽靖(あさばしづか)先生のご命日に慰霊祭を執り行い、歴代の理事長・学長・校長並びに、この1年間にご逝去された北海学園役員・教職員および学生・生徒の御霊を、ご遺族・関係者参列のもと慰霊するものです。(葛西)



行事予定

令和元(2019)年		2/13(木)	一般入学試験[2月13日試験]
12/20(金)	推薦入学試験[公募Ⅱ期]	2/20(木)	一般入学試験合格発表、
12/27(金)	冬季休業開始		センター試験利用入学試験合格発表[Ⅰ期分]
令和2(2020)年		3/2(月)	卒業生発表
1/8(木)	冬季休業終了	3/7(土)	後期修学指導面談②(予定)
1/9(木)	講義再開	3/11(木)	センター試験利用入学試験合格発表[Ⅱ期分]
1/17(金)	卒業論文提出期限	3/18(木)	卒業証書・学位記授与式、卒業生を送る会
1/18(土)・19(日)	大学入試センター試験	3/22(日)	学年末休業終了
1/30(木)	振替講義日(水曜日)	3/23(月)	新3年次ガイダンス(午前)
2/3(月)	後期講義終了		新2年次ガイダンス(午後)
2/4(火)	学年末休業開始、成績開示、	3/24(火)	新4年次ガイダンス(午前)
	成績・採点異議申し立て受付開始	3/25(木)	新2年次履修登録、新3年次履修登録
2/5(木)	成績・採点異議申し立て受付終了	3/26(木)	新4年次履修登録
2/8(土)	一般入学試験[2月8日試験]	3/27(金)・28(土)	履修登録訂正日(全学年)